



川越市立大東西中学校 学校だより

# きらめき

令和7年12月24日発行

冬休み直前号

川越市立大東西中学校

校長 小川 潤也

学校教育目標 『豊かな心を持ち、たくましい生徒 ～ 夢や希望をもつ生徒 ～ 』

○自ら考え、自ら学ぶ生徒 ○豊かな心を育む生徒 ○心身の健康に努める生徒

## 冬休みを迎えるにあたって ～自己肯定感・自己有用感を育む時間として～

校長 小川 潤也

本日、無事に二学期を終え、明日から14日間の冬休みに入ります。日頃より、本校の教育活動に対し、保護者、地域の皆様には温かいご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

冬休みは、夏休みに比べると期間は短いものの、一年の節目として、これまでの学校生活を振り返り、次の学期、そして新しい年へ向かう準備をする大切な時間です。二学期を通して、生徒たちは日々の学習に取り組みながら、学校行事や友人関係など、さまざまな経験を積み重ねてきました。思うように結果が出たことばかりではなく、悩んだり、迷ったりした場面もあったことと思います。しかし、その一つ一つが、生徒の成長にとって欠かすことのできない経験であり、確かな歩みとなっています。

中学生という時期は、心身の成長が著しい一方で、自分自身を客観的に見つめ始める時期でもあります。そのため、周囲と比べて落ち込んだり、自信を持てなくなったりすることも少なくありません。こうした時期だからこそ、自分の努力や成長を振り返り、「ここまで頑張ってきた」「少しずつ前に進んでいる」のような自己肯定感を感じることが大切になります。

私は、学校は「生徒たちに自信を付けさせる場所」、「なりたい自分を目指す場所」だと考えています。冬休みは生活の中心が家庭、地域となります。そのような振り返りを行う良い機会です。特別な出来事や大きな成果がなくても構いません。日々の生活の中で、最後までやり遂げたこと、続けてきたこと、周囲の人のために行動できたことなどに目を向けることで、生徒は自分の存在や役割の大切さを感じることができます。次の目標に向かって前向きに取り組む力につながっていきます。

ご家庭におかれましては、冬休み中の何気ない会話や日常生活の中で、生徒の頑張りや成長を言葉にして伝えていただければ幸いです。「助かったよ」「ありがとう」「頑張っているね」といった一言が、生徒の心に安心感を与え、自信を育てます。

また、家庭の中での役割を担うことや、家族と過ごす時間を通して、自分が必要とされている存在であるという、自己有用感を感じることも、心の成長にとって大切な経験となります。

さらに、冬休みは心と体を整える時間としても大切にしてほしいと考えています。生活のリズムを大きく崩さないよう配慮しながら、十分な休息をとり、新しい年を落ち着いた気持ちで迎えらるようご支援をお願いいたします。

本校では、三学期に向けて、生徒一人一人が安心、安全に学校生活を送ることができるよう、引き続き支援を行ってまいります。冬休みが、生徒たちにとって自分自身を見つめ直し、次の一歩への力を蓄える時間となることを願っています。三学期の始業式に、元気な姿で登校してくる生徒たちに会えることを、教職員一同楽しみにしております。